令和6年9月6日

令和６年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和6年4月18日(木)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　44　人

②　算数　　44　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

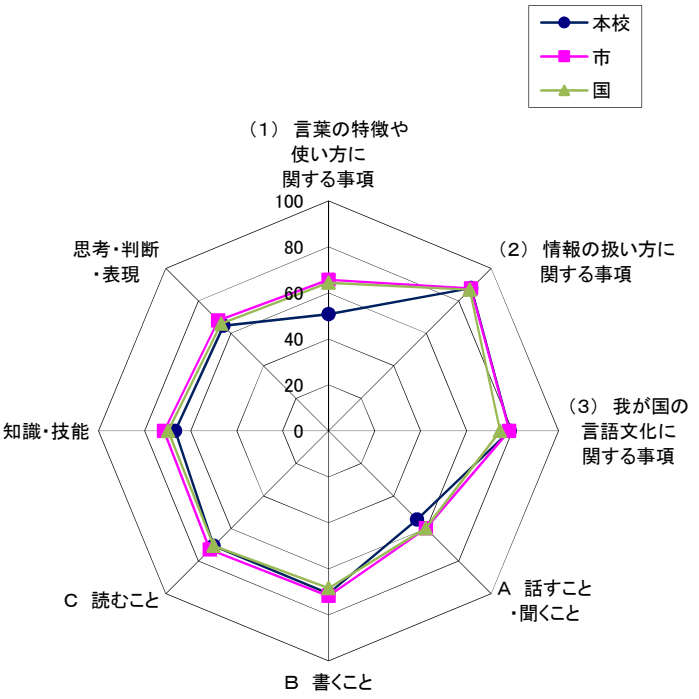
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	50.8	65.7	64.4
	（2） 情報の扱い方に関する事項	87.8	87.6	86.9
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	78.8	78.6	74.6
	A 話すこと･聞くこと	54.5	59.9	59.8
	B 書くこと	70.7	71.8	68.4
	C 読むこと	70.7	72.9	70.7
観点	知識･技能	66.7	71.5	69.8
	思考･判断･表現	64.6	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

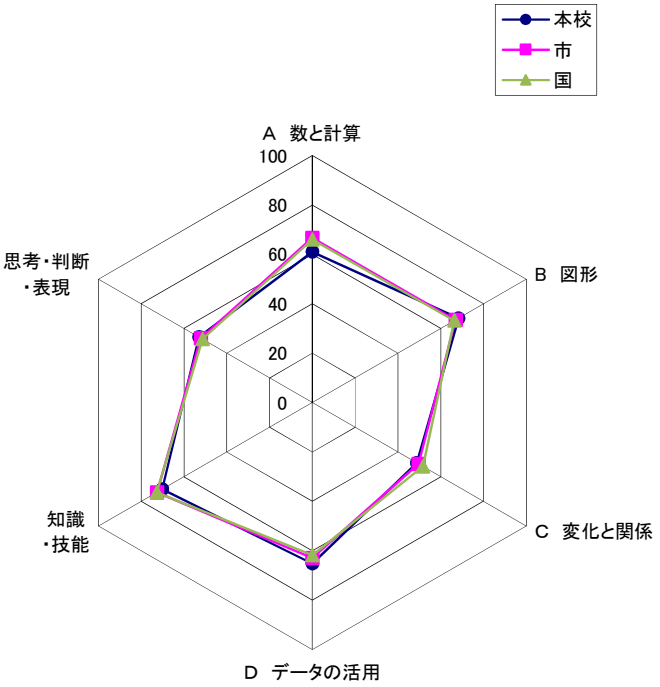
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，全国の平均正答率を下回った。 ○文章の中で使われいる言葉を漢字に書き直す問題では，正答率が全国平均を上回っている。 ●文章中の主語と述語の関係を捉える問題では，全国の平均正答率を約4ポイント下回っている。	・国語の授業において，主語と述語の関係を考えさせるような発問を意図的に増やす。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，全国の平均正答率を上回った。 ○文章と図表がどのように繋がっているかを考えさせる設問で，全国の平均正答率を上回っている。	・国語や総合的な学習の時間を中心として，文章と図表を用いたアウトプットを引き続き行っていく中で，その効果について理解を深めていく。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，全国の平均正答率を上回った。 ○日常的に読書に親しみ，読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる設問で，全国の平均正答率を3．4ポイント上回っている。	・今後も読書の機会を確保するとともに，そのよさについて都度伝えていく。 ・学校図書館司書と連携し，児童の学びを広げられるような本を準備してもらう。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，全国の平均正答率を下回った。 ○資料を活用した表現の工夫ができるかどうかをみる設問では，全国の平均正答率を3．2ポイント上回っている。 ●目的に応じて話す内容を検討する力をみる設問では，全国平均を10．3ポイント下回った。	・係や当番の活動の中で級友にお知らせをする場面において，どのように伝えていくとよいかを指導することで，目的や意図に応じた伝達内容の精査が体験的に理解できるようにする。 ・目的に応じた内容検討は，書く場面では得意な一方，話す場面では苦手な様子が見られるので，書く活動よりも話す活動に重点をおいて指導する。
B 書くこと	平均正答率は，全国の平均正答率を上回った。 ○目的に合わせて書く内容を考える問題では，全国の平均正答率を5．1ポイント上回った。 ●事実と感想，意見を分けて書く力をみる問題では，全国の平均正答率を0．5ポイント下回った。	・国語や総合的な学習の時間において，事実と感想，意見を分けて伝えることのよさや，具体的な書き方を繰り返し指導する。
C 読むこと	平均正答率は，全国の平均正答率と同じだった。 ○物語分を読み，人物像を具体的に想像することができるかをみる問題では，全国の平均正答率を5．5ポイント上回った。 ●登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える問題では，全国の平均正答率を5．9ポイント下回った。	・国語の物語文の単元において，心情を表す表現に特に注目し，語彙や表現力を増やす。 ・授業の登場人物の心情を考える場面において，似たような選択肢を与え，どれが答えか考えさせることで，より深く読み取ることができるような力を育む。

宇都宮市立西原小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	61.0	66.7	66.0
	B　図形	68.3	66.9	66.3
	C　測定			
	C　変化と関係	48.8	49.6	51.7
	D　データの活用	65.2	62.9	61.8
観点	知識・技能	70.2	72.6	72.8
	思考・判断・表現	53.0	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	平均正答率は全国，市の平均より低かった。 ○数量関係を□を用いた式に表す問題や，計算が成り立つ性質を活用して，求め方を記述する問題では，全国の平均正答率を上回った。 ●問題場面の数量関係を式に表す問題では，平均正答率が全国平均を約13ポイント下回った。	・問題文から式を立てるだけでなく，式に合う問題文を考えさせる場面を意図的に設定し，式が何を表しているのか的確に言語化できるよう指導する。
B　図形	平均正答率は全国，市の平均より高かった。 ○直径や円周の長さ，円周率の関係についての問題や，五角柱の面の数とその理由を記述する問題では，全国の平均正答率を上回った。 ●直方体の見取図をかく問題では，全国平均を5ポイント下回った。	・図形の辺の長さや数の関係を捉え，展開図や見取図をかく機会を算数の授業の中でに十分に扱うようにする。
C　変化と関係	平均正答率は全国の平均より低かった。 ○速さが一定であることを基に，道のりと時間の関係を求める問題では，全国平均を上回った。 ●道のりが等しい場合の速さについて，時間を基に判断し，その理由を記述する問題では，全国平均を9ポイント下回った。	・正しく立式し計算するだけでなく，そのような式になる根拠を言葉で書いたり話したりする機会を算数の授業において積極的に設けることで，根拠を言語化できる児童を育てていく。
D　データの活用	平均正答率は全国，市の平均より高かった。 ○表を読み取り，必要なデータを取り出して，分析整理する問題では，全国平均を約7ポイント上回った。 ○折れ線グラフから必要な数値を読み取り，条件に当てはまることを記述する問題では，全国平均を9ポイント以上上回った。	・アンケートの集計結果をパソコンに任せるだけでなく，時にはアナログで集計して表にまとめる活動を行うようにすることで，表の見方に慣れさせる。特に二次元の表は触れる機会が少ないため，教師が係活動などにおいて意図的に場面設定をしていく。

宇都宮市立西原小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「朝食を毎日たべていますか」という質問について93%の児童が毎日食べていると回答し、家庭の協力が得られほとんどの児童が朝のよい生活習慣が身についていることがわかる。
○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問について、肯定的回答をする児童の割合が97%を超えていた。ほとんどの児童が教職員と信頼関係を築くことができ，安心して学校生活を送ることができている様子がわかる。
○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問について、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合が国と比べて32ポイントととても高かった。本校では、調べ学習だけでなく考えをまとめたり共有したりするなど学習活動の様々な場面でICT機器を授業に取り入れてきた。その成果が出ていると考える。今後もICT機器を学習に役立てていくとともに、授業外でも「学び続ける」ための重要なツールとして上手に活用できるように支援していく。
○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の質問について、肯定的な回答をする児童の割合が9割を超えていた。課題を見出しその解決のために情報を集めまとめる活動から情報収集やまとめる力が身についてきた。自分の周りに関心をもち課題を「自分事として捉える」ことができているともいえる。
○「学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という質問について、肯定的回答をする児童の割合が国や県と比べて高く9割を超えていた。学級で決めたことを尊重し、自分もその一員として主体的に関わっている姿がみえる。
●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問について、肯定的な回答する児童の割合が国や県と比べて15ポイント低かった。自分と異なるものになじめない児童の姿が見える。多様な価値観に触れる体験を通して、寛容な心を育てていくことが求められると考える。
●「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問については、肯定的回答が多かったが、「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問については、否定的な回答する児童の割合が国や県と比べて多かった。多くの児童が国語の大切さを理解している一方で、苦手意識をもっている児童も多いことに課題が見られる。今後は漢字や言葉の既習内容は計画的にを復習し，思考表現の内容では題意を掴むことや自分の考えをまとめて書くことに慣れるよう授業内容を工夫していく。
○「英語の勉強は好きですか」「英語の授業の内容はよく分かりますか」という質問について、「当てはまる」と回答する児童の割合が国と比べて7ポイント高かった。英語への興味関心が高い。中学校英語へつながるよう支援していく。
●「算数の勉強は好きですか」「算数の授業の内容はよくわかりますか」という質問について、否定的回答をする児童の割合が国や県と比べて高かった。「算数の問題が分からなかったときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」「算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」という質問について、いずれも「当てはまる」と回答する児童の割合は国や県と比べて少なかった。算数の課題に取り組む児童の姿勢が消極的であることに課題がある。基礎基本の定着や問題解決的な学習を行い、児童が主体的に課題に取り組めるような工夫をするとともに，学習内容の単元や学年の繋がりを伝え学びへの意欲を引き出していく。

宇都宮市立西原小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・記述式の解答の無回答率が多い		・様々な振り返りを文章で書くようにする。 ・その日の学習について書けるよう，テーマを決めて日記を定期的に書くようにする。